WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

Jan. 21
1888
No. 93

女學雜誌

明治二十一年一月廿一日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

第九十三號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 93, January 21st, 1888.

第九十三號

EDITORIAL:— A Few Words of Indignation and Sorrow in behalf of our Sisters.

LEADING ARTICLES:— Senator Kato on Practical Morality; On Self Conceet, by Mr. H. Suzuki.

MISCELLANIES:— The Japanese Character for woman explained, by Mr. H. Suzuki; Woman's Position in the Present Day, by Mrs. Y. Yamaka; Virtue of Humility: No. II.

NOVELS:— "Last Days of Pompeii."

BIOGRAPHIES:— Mrs. Haush; Madame Elisabeth

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社說　姉妹の爲に慷歎す

●論說　品行論（加藤弘之）○生意氣の說（鈴木券太郎）

●叢話　女と云ふ文字の解（鈴木弘恭）○現今日本の婦人（雪江女史）○謙遜の說第二

●小說　奔彪榮華の夢（花賣娘の二）

●佳傳　ホウシ夫人○マダムイリサベス

●寄書　新年の祝詞（神田順）○閉校式の文（飯島茂）

●新報　三十五件

●珊瑚の珠（第四十九回）

○マーテン、ルウテル曰く太古アダムが妻を申し得たるや之を其妻とは稱せずして即はちイーブと名づけたりイーブは母の義にして人類物躰の根元たりと云ふの理あり思ふに此の一事はたとひデモスゼニス若しくはシスロ再び現はるゝと雖ども蓋し如此く十分には述べ得ざりしとあらん

○コーレリッヂ曰く昔しポープは婦女子に一定したる氣質あらずと論じて之を非りたり然れどもポープよりも更らに明らかに男女の性質を承知したるシエークスピアは云へり抑も女に一定したる氣質なきが即ち其の德にては在る即はち良人の心は瞭解するあたはずとも能く其心と感を同ふする例へばデスデモナ若しくはチフヘリアの如き婦人を以て女德を得たるものとする也（コーレリッヂ又た之を賛す思ふに此の三氏の說は彼の雨の夜のしなさだめ、たゞ軟らかなる婦人を以て上の上なりとするに均し見識卑汚眞正の敬愛を知るものにあらず）

○貫之家集につねすけの中納言の內方とあり人の妻を內方といふはふるきとなりけり（玉勝間ふじなみの卷）

○ゆはた帶とは結肌帶といふを略したるなり（貞丈雜記）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第九十三號　明治二十一年十一月廿一日發兌

社說

○姉妹の爲に慷歎す

人間の權利を擴張するは善きか惡しきか、曰く固より善し何人と雖ども恐らく之に反對する者なからん。然らば次に問はん女子は人間なりや否や、曰く固より人間なり好しダルヰンの說行はれて人と猿と先祖を同ふすと定まるとも又た好し佛陀の說法勢ひを得て女は夜叉に均しと思はるゝと雖ども現に其の人間たることに至つては何人も不同意を表する能はず。然らば則はち問はん人間の一人たる女子の權利を擴張するは善きか惡きか、玆に至つて答ふる者躊躇して答へず論ずる者口籠つて論ぜず漸くにして明言する者は則ち云ふ未早しと。抑も何事の早きぞ、凡そ人は一つの靈魂を具え一箇の自主權を有す之れ決して他人の爲に奪ひ去らるべきものにあらず而して女子既に人間たりと云はゞ其靈魂は毫も人の束縛を受くべからず其自主權亦決して人の支配を蒙るべきものにあらず然るに今ま年來の惡習に依つて男子暴りに婦人を壓制し万の事悉とく之を支配して其の權利を無みするとあらば此の不

心得を破つて速に男女同等の地位に立返らしめんが爲に一方にハ男子の氣儘を制止し一方にハ女權の擴張を圖るハ眞に至正至當の事にして一日も之を遲延すべきにあらず、故に彼の未だ早しと云ふもの丶如きは事理を辨ぜず人權の重んずべきを知らず只だ其の私慾に制せられて勝手氣儘を述ぶる野蠻未開の紳士なりと云はざるを得ず。

且つ此類の人々の論ずる所ろを聞くに更らに歎ずべきものあり云く吾黨固より婦女子に自主の權を與ふるを否むにはあらず只だ彼等が無智無力なるに因りて自から之を與ふるに安んぜざるのみ見るべし現に女の考への淺墓なるを其事を思ふや則ち涙則ち癪感情甚はだ濃やかなるに似て去る者を忘る丶尤も早く虛榮華美に眼を眩まして實益實利の道を念ずると甚だ迂なり偶ま女學者なきにあらず然れども一生の事業ハ小說のみお談しのみ筆記のみ未だ嘗て新らしき大理論を發明したるハあらず況んや其の一身に有する所ろの財產ハ何如ん吾に嫁したる時ハ簞笥二荷長持二棹鏡臺一つ而して今日堂々たる有爵の夫人と爲つて世に重んぜらる丶を得るものハ皆な吾の功に由るにあらずや思に現に世の夫婦たるものハ何れも皆な如斯き關係あらざるハなし誰れか其良人の厄介寄生物たらざるの夫人あらんや夫れ既に智力に乏しくして重きを任ずるの德あるなし又既に其產なく世の良人たるものに於て固より權を殺いで自から之を細君に附するの義務あるなしと、吾人が實際に此類の議論を聽くハ少しと爲さず思ふに今日滔々たる倘早し論者の心中を穿つときハ蓋し恐らく皆な如此き暴理論を以て其氣儘を安んずるの根據と爲すものにあらざるはなけん。然ども現今の如く婦女子をして無智識たらしめたるものハ果して誰れの罪ぞ亦た今日の如く婦女子をして無產力たらしめたるものハ果して誰れの仕業ぞ曰く女は多く學ぶを不可とす云く女は外事に關はるに及ばず云く斯る事は女の聞くべきものにあらず云く其樣なる事ハ女のなすべき者にあらずと斯して娘を箱入にし妻を女房に閉ぢ込め凡そ智識を與へ智識を開發するに足る所のものハ一切之に近づけず日々お膳雜巾夜具しめしゝ伴侶せしめ置て而して女子ハ如此く無智なりと云ふ天下何の處ろにか斯る暴論あらんや、且つ世間ハ女の爲に職業を與ふるを好まず偶ま之に職業を授くるものあれば則ち例外に之が賃金を低くす父は簞笥長持鏡臺の外か其產を女子に分つとなく夫ハ私情に適ハざるとき則ち無一物の儘を以て妻を追出すとあり而して時に產あるの婦人なきにあらずと

雖ども既に聟を入れて之を夫と爲さば其產悉く之に屬して吾に之が所有權あるなし一朝事あるの時法に據つて之を訴ふると雖ども律法冷澹にして吾に全勝の保險を爲さず我國現時の法律風俗は共もに女子の產力を養はしむるに於て甚だ不信切を極めて而して女子は如此く無產力なりと云ふ天下何の處ろにか亦斯る暴論あらんや。嗚呼古來未だ嘗て學ばずして能く論ずるものはあらず未だ嘗て與へられずして能く富めるものはあらず然るに年來女子の修業に不同意を表して而して女流に大學者大智者なきを奇しみ現に女子の授產に不信切を極めて而して女流に大財產大實力なきを奇しむものは豈に天下の愚人にあらずや而して堂々たる日本の上流紳士中尙ほ如此き理論を爲す所ろの人少らずと云へば則ち更らに國家の爲めに歎ぜずんばある可らず。

然るに公けに尙早し論を唱へて陽はに女權擴張に盡力せざるものは尙ほ愛すべきものあり現に女權論の文を示し乍ら家に細君を壓制し女權論の演說を口にし乍ら私しに其の姉妹娘女を束縛するものに至ては吾人切に之を痛歎せざるを得ず、而して現に婦人の集會に盡力する所の婦人及び女學校に勉學する所の女學生にして尙ほ自から重んずることを知らず徒らに空謙遜を以て優美なりと心得卑屈辭退を以て淑雅なりと誤認し因循として新しきに就かず常に自から輕んじて絕へて奮發興起の氣象なきものに至ては吾人尤も之を慷歎せざるを得ず而して現今の世間滔々として尙ほ此類の似非論者卑屈女子多きは抑も何事ぞや。嗚呼熱心に同胞姉妹の爲に憂ひて其の天權の伸びざるに慷慨し之が爲に全身を犧牲にして其地位權利を進張せんことを希ふ者は果して誰ぞや而して如此く憂ひ如此慷慨し如此く希圖する者にして其の進張の爲に力を盡すの方法は果して何如ん吾人は先之を聞んことを熱望する者也。

論說

○品行論　加藤弘之

此の篇は明治二十一年一月八日加藤弘之君が東京學士會院に於て講演せられたるものゝ大要を社員が書き取りたるものなり。

私の今演說をやうと云ふのは、こゝに揭げて有る通り、品行論で有ります。先刻、重野（安繹）さんがお話しの有つた通りに、今日は私が演說をする番では無いが、正員の人が差支が有ります、補員も二人あるから差支が有り、四人の中で一人ま

か出られない譯だから、其れを埋め合せる爲めに、私が埋め合せの演説を、することに致しました。

この品行論と云ふのは、前から考へて居ッて、草稿を拵へて置いたと、云ふので無くて、埋め合せをしやうと、云ふ ことがきまッてから、目錄のやうなものを、書いて見まして、其れに就いて言ふので有るから、言ふ中に、前後をすることも有らうし、また、言ひ落すことも、有りましようから、其のお積りでお聽き下さい。いづれアトで分るやうに書いて、雜誌にでも出して、お目にかけませう。

品行論と云ふと、一般の品行のことに、かゝるやうで有りますが、私が今日言ふのは、男と女に關係することで、其の中にも、重もに男の方の品行、即ち男に就いての品行のことをお話ししませう。

私は一昨年の末に「男尊女卑の是非得失」と云ふことに就いて、こゝで演説を致したことが有りました。其の時に、男女の品行のことも、言ひましたが、今世間で一體に言ふところでは、男がヒトリ尊くして女が卑いと云ふのハ、天道に背いたことで、人倫の道に戻ッたことで、有ると云ふが、其れは開けた世の中に至ッて、惡いと云ふので、開けぬ世の中には、男尊女卑の方が、利益になッたことが、有りました。さう云ふ世の中には、天道に背くとか、人倫の道に戻るとか、云ふのが、道德に適ッて、居ッたのだが、開けて來て、道理に合はぬと、云ふやうに、なッたのだと、言ひましたが、其のとき、お聽きにならない方も、有りませうから、先づ其の大意を言はなければ、なりませぬ。

其の大意を申すと、前には夫婦と云ふものが立たなくッて、一つの社會の女は、總て、其の社會の男の共有物と、なッて居ました。ヤッパリ禽獸社會と同じことに、總體の男が、總體の女を共有物にして、力の有る者が制御することに、なッて居りました。其れだから、女の方では、今日の如くに開けて來た時よりも、自由であッて、誰は誰の女房だと、云ふことも無く、大勢であるから、一人や二人の女房となるよりも、ヨホド樂であッた。然るところが、其の後ち、同じ社會の女は、同じ社會の男の、共有物であるところから、他の社會とか、他の部落とかから、女を奪ッて來て、さうして自分の私有物に、することが始まッた。さうして他から奪ッて來た、女だけは、其の奪ッて來た人の、私有物にすることを、許した。たゞでは、同じ社會の女を、男一人で私有することは、

出來なかッた。其れから、しまひには、女を賣買すると云ふことが、出來て來た。さうして買ッた女は、其の人の私有物と、することが出來ることに、なりました。其れからして、男女の配偶が、出來て來たと、云ふことは、人種學者などのホトンド異論の無いことで、今でも國によると、其れに似たことが有ります。さうした時には、モウ女が、一人の男の壓制を受けるのだから、女の身に取ッては、難儀で、前の共有物の時分よりも、ツラクなる。其れで、自由を奪はれては、困るから、女の方で、一人の男の所有物と、なることを、好まないやうになる。ソコデ、男が折角、金を出して買ッたり、骨を折ッて奪ッて來たり、したのに、女が男の私有物を、のがれやうと、云ふ氣が有るところから、山から鳥かケダモノを、生け捕ッて來たやうに、十分に嚴しくし壓制して、女の自由を奪ッて、しまはなければ、ならないと云ふので、さう云ふ鹽梅に、女の自由を奪ッて、自分の權力に、なづけるやうに、することが、必要になッて來ました。其れから、段々と年を經て行く間には、男の壓制を受けることが、當然のやうに、なッて來て、女の方でも、男の壓制を受けるのが、當り前である、男のナグサミモノとなるのが、當り前であると、思ふやうになり、其れで、夫婦と云ふものが、かたくなッて、來ました。其れで、男と女は、權力も地位も違ッたもので、其れが、天然の道だと、思ふやうに、なッて來ました。

箇樣に、夫婦がかたくなッたから、其れで、一家族と云ふものが、出來て來ました。以前には一つの部落が、親戚で有ッて、一家族と云ふものは、無かッた。初め錢を出して、買ッて壓制して、其れから年數を經て、其れが當り前になッて來て、社會の中に、家族と云ふものが、出來るやうになり、國は家族から成り立つと、云ふやうに、なりました。古い說では、國は初めから、家族から成り立ッて來たのだと、思ふが、國の中に、家族が出來たのが、一つの進步で、男が壓制を爲し、女が其の壓制に我慢して、從ふやうになッたのが、一つの開化の段落に、なりました。其れだから、其の時には、さう云ふ鹽梅で、無ければ、ならなかッたもので、初めから、男と女の權力が、さう云ふ譯であッて、其れで無ければ、開化の第一の段落に、進むことが、出來なかッたので有ります。開化の第一の段落を、爲したのは、男が尊くして權を有ち、女はたゞ唯々諾々として居ると云ふのが、開化の導きを、爲したことで、有りませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

さふして、男と云ふものは、勝手次第に、數も限らず、幾人でも、自分の勝手だけ、女を己れの私有物に、しました、開けぬ國では、妻も妾も差別なく、幾人も有ッて居る者もあり、開けた國では、妻は幾人と云ッて、數を限り、其の以上は、妾として、數を限らぬと、云ふやうに、なりました。モウ少し進んで、支那のやうな所にあると、妻は一人で、表向きは、一夫一妻で、其の他は妾と云ふこともあり、妾ならば、幾人でも構はぬと、云ふことに、なッて居るから、ヤッパリ一人の男が、多くの女を自由にして、居ることになッて、居ます。西洋では、全くの一夫一妻と、なッて居るが、併し内所で、妾を置く者が、隨分有るが、先づ一夫一妻と云ふことに、なッて居ます。支那の如く、本妻一人と、云ふやうになれば、ヨホド女の權が、強くなり、西洋のやうになると、また餘計に、強くなッて來ます。（未完）

○生意氣の說（其二）　鈴木券太郎

實際家と稱する人より見れば余輩の如き理論家は生意氣な者なるべく支那より見れば日本は生意氣な國なるべく維新前柳營の老中年寄より見れば薩長の勤王家は生意氣なりしなるべし然れども其冷評は時代若くは境遇の思想の片寄れる雛形に由來したるものなるべく又由來せしものに違ひなし果して然れば彼の世俗の眼より見て或は生意氣とも見ゆる數多の行爲好尙と雖ども其の實生氣意でも又高慢でもなくして眞正の活潑、有爲、自尊、自信、自重の結果なるも知るべからざるなり余輩は初めより好みて生意氣の評を受くべしと人に勸むるものにあらざれども其自ら信ずるの深き時俗と徑庭するも敢て問ふに暇なき程の見識を備ふる上にて受ることならんには生意氣と云はるゝも又は鑄懸屋の天秤と評せらるゝもそは其の人の少しも耻辱にあらざることゝ思ふなり近年我國にて婦人改良の說盛なるは結構なれども未だ固着の思想の支配するものにや隨分學識ある人にても日本婦人の修學を見ては生氣意とさげすみ又其の社交に慣れたるを見ては是又生意氣と評し又其の英語を用ゆるを見ては是又生意氣とけなし矢張り唯々諾々喪家の狗の如き女子を賞賛する手合夥しきとあり尤も改良婦人の多き中には爪彈きに價する卑汚のものあるべしと雖も一概に「生意氣な女」なる評語を冠らせるは苦々しき次第なるが扨て其時流の評語は決して永續せざるべし故に日本婦人の方々にして自から地位を進むるに熱心なる以上は此等の時論に撓まずして今日の冷評却て他日の金牌なることを思ふべ

きなり蓋し今日の有爲婦人に關する樣々の攻擊は何れも感情的の分子より成立つものにて一も道理あるにあらざるが故に余輩は今日生意氣と云るゝ婦人に對して是等のことには關心せず忍耐剛毅、善く當初の目的を達せらるへしとは勸告す。凡そ社會の多數は意外に卑劣なるものにて自己の感情に反し自己の不利益と思ひ做す所ろのものに向つては種々の嘲弄を與ふるものなり現に時論が改進の奥方姫達を生意氣なりと評する如き即はち其一例として見るべし然れども其生意氣と云はるゝ行爲（但しチヤポ、カツパなんどの評ある容姿は余輩固より敬服せず）は早晩社會感情の是認する所となりて今日有爲婦人の勝運到來するや必定なり維新前後のズボン、マンアルは生意氣なりし、維新前後の横字修行は生氣氣なりし、維新前後の散髮は生意氣なりし、併し乍ら此等のもの今何れも行はれたり婦人改良の道に横はる多數の非難と雖も亦然り遠からざる中には沈默して其の改良の膝下に屈伏することあらん失望落膽絶へて無用なり古より英雄豪傑の行爲は皆な一回は生意氣ありしが遂には之れに打勝ちたるを見ても生意氣の評の必ずしも復た避くるを要せざる所以を解すべし　（完了）

叢話

○女の字の解

鈴木弘恭

女といふ文字は漢字でありますが。英語ではウーマン。日本語ではをみなといひ。普通俗言にはをんなと申し升。そのをみなといふ語の義解を一言申すとと致しましやう。我が日本人なる貴孃等に取りては。最も有用なることかと考へ升。若し外國の人が日本にては。女（若しくはウーマン）の總名ををみな（或はをんな）と呼ぶは。如何なる義なりやと。尋ねられました時に。答が出來ませんのは少し不都合ではないかと存じますから。ソコデ此の一題を掲げまして一言申上るのであり升●

さてをみなを俗にをんなと申すのは。普通言でありまして。んとむとは同義でありますが。むを鼻にかけていへばんとなるのでありまして。其のみとむとは轉語と申して。五十音の麻行第二の音（み）を第三の音（む）に轉じていふのであります。此の類は尤も多くあり升。たとへば。書物をよみて（書物をよんで）。酒をのみて（酒をのんで）。住みて居る（すんでゐる）。進みて行く（すゝんでゆく）の類であります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

因てをみなとをんなとは。どちらでもよろしいが。をみなといふ語は正しき方にて。をんなといふは正しからぬ語と知るがよろしい。

さてをみなのをは漢字に宛て申さば。大小の小の義でありまして。小は少の字と通じまして。ワカキ義であります。此のワカシといふ詞を冠せましたのは。譽めていふ意でありまして。則ち美稱であります。さてそれが遂ひに普通名詞とはなつたのであり升。

日本の神名には。男女ともに此の美稱を冠せたるものが殊に多くあります。あめわかひこ。わかひるめの神。わか山ぐひの神。わか年の神。わかさなめの神。などの類であります。

又何々別といふ神名も多くありまして。わかもわけも同義であり升。五十音の加行第一の音(か)を第四の音(け)に轉じていふまでにて。轉語の例であります。此の例は多くあり升。さかさけ(酒)たかたけ(竹)の類であります。

天皇の御名にも。開化天皇をわかやまとねこひこ。成務天皇をわかたらしひこ。允恭天皇をわくですくねのみこと。雄略天皇をわかたけのみこと。と申しました。

さて又をは小の義ありとのみ私が申しても。或は臆說ならんと思し召すかも知れませんから。今いさゝか其の例を掲けて示しましやう。まづ貴孃らが御存知の名詞でいはゞ。顯宗天皇と仁賢天皇とは御兄弟でありますが。御兄仁賢の御名はおけなり。御弟顯宗の御名はをけなり。おをを以て御兄弟を別ちたるを見玉へ。又おぢおばとかけば祖父祖母の事なり。をぢをばとかけば叔父叔母の事なり。是れ祖父祖母は父母の又の父母なれば。大父大母の意にておぢおばとかき。叔父叔母は父母の兄弟なれば。小父小母の意にてをぢをばとかくのであります。又地名などの大江山大津大坂大田大江戸の類の假名は。おの字なり。小倉山小山小川小田小初瀬小田原の類の假名はをの字あり。是等を味はひて見たならば能く合點が出來るでありましやう。

又をはたをやかなどのをの如くわかく〵しくしてしなよきかたの意もあり升が。餘り永くなりますから此の次に申しましやう。

みはめと同じことにて。五十音の麻行第四の音(め)の第二の音(み)に轉じたる此の例も澤山にあり升。さてみは威靈といふ義にて美はしといふ意であります。則ち伊邪那美命などのみも同義にて。此のみを轉じてめといへば。女の總名となり

(八)

て。遂に動植物中に男女あるものにハ。必め何々といひて。其の女たることを知らしむる名詞となりました。なハ親愛の意であります。則ちなむじ(汝)。せな(兄)。おとな(大人)などのなの類でありますが。すべてなにぬねのの音ハ皆物に密着する意を含みてをりまする故に。母をたらちねといひ。姉をあねといひ。兄をあにといふも。皆密着して親愛するの意よりねにの文字を添ていふのであり升。ゆゑにをみなのなも親愛の意より添て申しますまでにて。是れには深き義ハないのであります。

さてをみなの義解ハ概畧かくの如くでありますから。つまりをみなといふ名詞ハ。三字のうち中のみの字が緊要にて上に冠らせたるをの字ハ美稱。下に添へたるなの字ハ親愛の言と見てよろしいのであります。まだ此の外に女の事をいもをとめひめめとも云ひ。又其種類につきてなみうハなりいらつめおうな或ハ祖母母叔母姉妹娘姪女童寡女女房乳母侍女下婢みづしひすましなどいふ類の名目か澤山にあり升が。又此の次に何か因のとき御話し申しましやう。

"It may not be always true that the boy makes the man, but it is always true that the maiden makes the woman."

D. Adams

○日本現今の婦人

名古屋婦人會員　雪江女史

行川の流れハ絶えずして若かも元の水にあらず淀に浮ぶ泡沫ハ且つ消え且つむすびて久しく止まる事なしとかや實に世上凡百の事物ハ墓なくも日月匆々の間に過ぎ去り我々も亦此に端なく明治廿一年といふ春をハ迎ふることとなれり顧みて昨年の事を思ふに皆おほかたハ悔しき事のみにして或ハ赧然として愧ぢ或ハ慄然として懼れ未だ此れとして見るべきもの極めて少なし然ハあれど事是れ過去に屬し明治廿年の舊世界既に逝けり復た永遠我有に非らず唯我向路にハ明治廿一年の一大新行路の横るあるのみ而して我々ハ今此旅行の門出にあり是より直に進むべきか將た暫く扣べきか、然り、待てよ暫し我等ハ如何なる道路を經過したる乎我々今果して如何なる場所にあるか又我々將來の方向ハ正に何れに進むべき乎右すべきか左すべきか東西南北何にすべき、待てよ暫し如何に急かるゝ旅にもせよ左まで焦躁ずもあれ先づ暫く心を落ちつけ靜に以下の疑問を解釋するところ緊要なれ

一、女權女學の伸張。古のことハ暫く措き近來我國に於て女論の漸く盛となりしハ今より僅か四五年前の事にして以前ハ只彼の仁愛なる外國婦人の設立に掛る小數の女學校ありしのみ

然るに恰も良し其頃騒々敷かりし政事の議論も何となく靜まり行き政治的の議論頓に一變して社會的の問題となれり是れ惟ふに當時の論者が只管政治の事をのみ心配なし能ふべくんば一躍して注文通りの政治界を搆造せんと試みたりしが中々以て世の中は思ひし如く動きもせず世の中には又世の中だけの種々なる不都合出で來て前途甚だ果敢々々しからざりければ論者歎息して曰く嗟呼ロマの帝都は一朝にして建設せられざりしものを左りとては餘りに性急なりき左るを何時までか執念く政治の事に戀々せんや漸く内に養ふ所ありて時節到來を待つこそよからめ然らは是より默して休息せんか否々決して然らず斯る多忙なる世界に立て豈に政治の事を措て他に竭力すべき餘地なしとせんやと此に於てか遂に彼の社會改良論なる新問題躍り出し續きて宗教改良といひ風俗改良といひ人種改良といひ上は九重の雲深き所より下は九尺二間の裏棚に至まで百種の改良論獨り揚々として全國に跋扈せりそが中にても彼の女權女學の議論は此が先鋒となり最も進んで最も急に一寸進めは一尺進み十より百、千より萬と今は早や時勢の虎に騎て輿論の鞭を擧げてければ愈盛に益烈しく遂には去十九年中には十一の女學校と廿二の婦人會とを起すに至れり（女學雜誌昨年の調による）乃ち外國婦人の女學校も俄かに振ふて此好機會に乘じ或は間接に或は直接に始終斯道の奬勵を致されければ爾來全國の女子續々踵を接して東京に遊ぶもの一日は一日より多く女學の面目亦昔日の觀にあらず近頃何の女學校か更に増築若しくは新築せざるものある然るに尚ほ何の女學校も生徒滿員なりとて入校を謝絶せる勢あるにあらずや女學校の必要それ斯の如く切迫せり左れば此等の必要に應ぜんがため東京を始め全國中僅か昨年一年間に於て百有廿の學校或は集會を起すに至れり（女學雜誌による）とは前代未聞の事にして今より此が將來を思へは我國の女運は果して何の邊にか向ひ又何の邊にか達する何人かよく不可思議なる天眼通を備て明に之を看破し得るものぞ

二、今日の婦人は正に如何なる所まで到達したるか。日本女流が僅々四五年間に於て驚く可き長足の進歩をなしゝ事は上來論ぜるが如し而して此間は啻に女學校婦人會のみならず女流に係はる著作、新聞、雜誌の如きもの亦一時に湧き出し其他演說に講義に盛に女學の奮起を鼓舞せしかば此に漸く進歩の一層迅速なるに至りしかども如何せん古來幽閉鬱屈したる女流の事にしあれば卒とて敢て振起するの勇なく唯何となく躊

睹さるゝの姿なりき然るに彼の急進論者ハ更に過劇なる變則を施し男女交際會とか夜中舞蹈會とか何れも危險なるものを流行せしめて矢庭に之を引き立てんと試みたり兎角する程に女論大勢の進歩漸く一層急劇となり今ハ早や女流自ら進んで男子を卑屈なりと責め因循なりと戒め此に剛然として女權擴張を論議せらるゝ者あるに至れり勢斯に至りしかば先にハ進歩の速かならざるを憂し論者も今ハ其遲らさるを憂ひ若しも此儘に放任し置かハ郤々將來勇々敷の禍なりとて反て倒に心配せらるゝに至れり然れども彈丸既に砲門を飛び出せり爭でか再び本の筒に返るべき向後益進めハとて豈よく再び退くとあらんや蓋し我々姉妹方ハ今日此所まで到達せる者なるか我々女流の爲めにハ慶賀すべき事にぞある然りと雖ども退きて細かに一方の實際を觀察せハ又深く姉妹と共に泣さる可らさるものなり曰く何が爲めに泣く現今我々女流の不仕合の古に數倍せると世上の男子が相變らず薄情なるとを泣さる可らす曰く何が故に我々婦人の不仕合ハ古に彌増し世上の男子ハ舊に仍て不人情なりといふ人俄に斯る言を聞かバ或ハ恠しとすべけれとも靜に今日社會の實相を觀察し來れハ忽ち釋然として胸中自から合點する所あるべし蓋し女學隆興の今日ある

を致せしハ世上の論者が眞實女流其れ自身の爲めに盡力せられたりと云はんよりハ寧ろ女權の議論ハ彼の政治論に倦み果てたる片手業なりしと云ふこそ適當なれ否な彼の男女交際會といひ婦人會といひ舞蹈會といふも眞に女流を尊敬して之が位置を高からしめんとにハあらずして矢張論者が彼の政治的の目的を達せん迄の一方便に過ぎざりき夫れ人生最貴の愛情さへも既に論者に蹈み附けられ彼の外交政略とかいふ恐敷ものゝ犠牲となりたり左れハ今日假りに我々の準備の畧ぼ成れりとするも我々ハ之を用ゐて何地に施すべき外にハ頻りに男女同權を主張せらるゝの極樂世界となりたるにも拘らす内にハ矢張依然として眞綿で首を縊めらるゝの地獄世界に異なるなし今日不完全ながらも相當の敎育を受けたる女學生が人生の本分なる和樂團欒の目的を遂けんとすれバ何地に之を施すべき今や我國の姉妹にして其志を伸ぶるに由なく憤を忍び恨を吞み憤然として密に血涙に咽はるゝ方々それ幾許ぞや我々思ふて此に至れる毎に未だ曾て筆澁り思迫りて一大長歎息せすんハあらず嗟呼可哀相なる哉我々日本の姉妹よ愍に世人に煽動せられて學問なしたるこそ反て其身の仇となりたれ家風に合す舅姑に容られず剰さへ偕老同穴と契り參らする我々

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

姉妹が良人達さへも屢彼の非似女權論者なるとあり嗟呼痛ましき哉我々日本の女學生よ我々は今斯る困難ある塲合に撲と行き詰れり然らは我々向後世に處する如何我々姉妹は一生獨居して獨り快よく世渡りせんか是れ歐米の文明國にして初めてよく實行し得るとにて未だ我國今日の狀態にては出來難き事なるべし然らば退んか退に由なく進まんか進むに勇なし西諺にいへるとあり文字を知るは心配の初めなりとは是れ姉妹の身の上なるかな

三、將來婦人の方向。西賢曰く道理なく笑ふは道理ありて泣くに及ばずと然らば我々が斯くまで女運の拙きを浩歎するは偶以て女學の進歩したる所以にして寔に是非なき次第なり左れいへ今眼を一方に轉じ東京神田の市街に停立して往來の婦人達を視られよ花の帽、風に戰ぎ、錦の裳塵を曳き今日或る部分の婦人達には飛鳥も爲めに落んとするの勢あり何の不仕合せかあらん又何の泣き事かあらん夫れ然り然りと雖ども東京の有樣を以て直ちに日本全國の摸樣を判斷せんとするは猶かの瞽者がチヤリチ氏大象の鼻端に觸れて慢りに其形狀を論するを一般また妄ありといふべし最早東京は日本の東京にあらず世界の東京なり左れば東京に遊ばるゝ數多の姉妹中或は自由に其志を伸活潑に其心を樂ましめ給ふべけれども是とても其數甚だ少々なるべし我々全國の姉妹が總じて斯る不運の境涯に陷りしにも拘らすよく我々を憫み倶に同感の涙を振はるゝ方々を誰とかする試に問ふ日本其人幾許かある蓋しおほかるべし我々未だ知らざるのみ顧るに我々は自ら進んで今日に至りしといひながら偏へに世人の誘導に敎唆せられて唯々一直線に進行なしたるなり然るに今心附きて後方を顧るに我々の不幸なる既に達く日本國を通過し我々の今日立てる位地は全く父母の日本にあらず左りとて我々は矢張り日本人なり誰と倶にか事を爲すべき誰をか友として交るべき曩に道連れたりし年長の姉妹は未だ逈か後邊に在りて徘徊進む能はず將來亦我々に追附べしとも見えざるなり嗟呼今日婦人社會の有樣果して然るか萬一此事其實を得たりとせば我々向後の進行を如何にすべき我々の先導者は誰なるか我々の指南針は何なるか我々の避難所ハ何れなるか

倩々考ふるに向後有志の姉妹達には獨り孤立して友なきを憂ひ給はず思ひ切りて己の高を忘れ低につき社會の上より指圖せずして進んで社 會の中に混り即ち社 會の下層より之を起すの工風なかるべからず人あるひハ難じて云はん左ればなり

我々如何に社會の下層に立ち入りて之を鼓舞せんとするも滔く々たる天下文字なき愚婦人は恬として更に應ぜず左ながら痛痒の毫も感せさる如きを奈何せんと是れ寔に然り我々の難とする所實に此にあり左れど我々の勉めさる可らさるも亦此に在り我々女學生の長所は世既に知れり短所も亦必らず知る人あらん我々女學生が斯くまで世人に尊敬せらるゝが如きにも拘らず實際社會に容れられさる有樣あるは抑も何ぞや思ふに彼の短所にあらずして返て其長所にあらんか我聞く曾て江戸に矢弓流劍術の達人あり其名遠近に高し當時武士の門下に遊ぶもの頗る多し一日先生の門前に喧嘩あり物音甚だ騒がし先生出てゝ之を見るに出入りの八百屋と魚屋の天秤棒を振り舞はして互に撃ち合ふ最中なりき乃ち先生進んで矢弓流の木刀を振り翳ざし一撃の下に此亂暴人を取りをさへんとしたるに豈計らん先生倒に亂撃せられ辛じて九死の中に一生を得たり後門弟迫りて曰く先生何すれぞ町人共に打ち伏せられしや門弟の耻辱口惜しく候と先生從容答て曰く然か云ふ可らず我は矢弓流の師範家なれども悲しき事には先方兩人は素人にして未だ撃劍の何たるを知らず由て我此の不覺を取れりと今日姉妹方の相手となし倶に事を爲さんとする社會は素人なり八百屋なり魚屋なり我々は深く矢弓流先生の不覺に注意せさる可らす我々は學校の學問を其儘丸出しに施す事なく又女學者として働く事なく世俗實用に適せざる可らす世人の我々を女學生として厚待するは蓋し敬して之を遠くるには非らさるか基督曰く爾曹のうち大ならんと欲ふ者は爾曹に役るゝ者となるべしまた爾曹のうち首たらんと欲ふ者は爾曹の僕となるべしと我々は苟且めにも女學生たるの念を抱きて世人と分離すべからず宜く己を忘れ身を窶し以て世間の婦人と打ち混り泣く者と倶に泣き笑ふ者と倶に笑ふべし然らば我々女學生が志を伸ふるの範圍俄然として其廣きに驚かるゝならん然りと雖ども是れ只冷淡なる理論のみ斯る高尚なる志操を吹き込みて實地に之を行はしむる力を何とかする曰く天下唯一の基督教あるのみ我々姉妹願くは基督教を以て先導者とし指南車とし又避難所となし給へ基督教と女流の關係につきては我また別に論あり聊か感する所ありて此稿を草す。

○謙遜の徳　（つゞき）

元來吾々人間は万物の靈長として造られたるものにて自から考ふれば甚はだ尊むべきものであると悟るゝとに候が左らばとて今先づ眼を放つて此の宇宙間の大現象を窺ひ見ますれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば私共は是れ最と微さき最と哀れなるものであると云ふとが亦明白となります。或る月の夜仰いで彼の天を御覽なさい明月雲間にたゞよひて大海原を歩み行くが如く見えまして其景色の宏壯なることは得も言はれざる程に感ぜられます尚ほ其の四方に注意いたしますれば幾萬と云ふ數の知ざる星は天の雲幕よ銀のべう打ったる如くにきらめいて見る。因て望遠鏡の尤も大いなるものを以て此等を精かに吟味いたしますると月世界には山もあり水もあることが明らかに分かるが彼の何万と云ふ星々は或は吾々の住ふ此の世界よりも大きやかなるもあり或は此の世界ほどのものを侶に連れて又た其仲間にて一つの大組合を立つるもあり一とつ〳〵が悉く廣大無邊の大世界に見えて驚愕の至りに堪へんことであります、扨ても扨ても此の天と云へる廣漠なる界ひの内には抑も幾千の大世界あるか而して此の無數の大世界を容るゝ所の天なるものは抑も如何計りに廣ろきものにて其の天の四方は何處に至つて境界あるものなるか其樣に考へ至るときは吾ながら殆んど氣を失うて茫然といたすように思はるゝことであります。

然し乍ら之は其の大いなるものであつて若し其の小さきものに就て考ふるときは殆んど又同樣の驚きがあります。先づ日本では罌粟粒の樣に小さいと比喩にも申して凡そ極めて小さいものは罌粟粒であると考へて居りましたことであるが當今の道具を用ひて之を尚更らに細かく分つて而して顯微鏡の尤も精密なる者を用ひて之を吟味いたしまするとかの最と小さしと考へ居つたる罌子の一粒一粒は亦是れ無數の細かき胞の如きものから成立つて居ることと分ります然るに此の胞の一つ一つには亦た一つの核の如きものあり液の如きものありて而して此の液は大河の如くに流れ行く中に之に浮ぶ所ろの一種異樣の虫が見える扨て〳〵斯る虫が此處に居ることかと奇しみて尚更らに之に注意して見ると此の虫の躰に着いて居るとは恰も人躰に蚤が居る如き狀にて一心に其の躰の養分を吸ひ取らんとして居る更らに小さき所ろの寄生虫が居るように見えます。如此くなれば此の尤も小き寄生虫は丁度蚊が大象にとまつて居るやうに考へて居りませう彼の液中に浮べる虫は恰かも太平洋中に游泳する一小魚の如き心意氣で居りませうが例の一つ一つの細かなる胞も罌子粒の上よりして見ますれば猶ほ天下に割據して各其界を守る東洋西洋の諸列國の如きものでありませう。實に万物の中にて尤も小さいと思ひ居つたる罌子粒の如きものすら尚ほ斯く迄でに調のつて居つて而う

して尙ほ斯く迄でに多くの家來を持つて居るか、凡そ此世の中の萬物は抑も如何ほど迄でに小さく微かなるものであるかと考へますれば實に〳〵驚愕の外なく亦た只だ茫然として自から奇しむが如き心地と相成ることでありませう。

扨て斯る廣大無邊、精密、極調の宇宙間に立ちまして密かに思を運らすときは吾等人間の力の極めて微かなるものであることが分ります。吾等如何程の智慧ありや、天地の道理一つとして根底より明知し得たるはなし只だ天地の道理の極まりなきに驚く計りである。吾等如何程の力ありや、一葉の綠の木の葉一片の紅なゐの花の瓣といへども吾等が力を以て造り得べきはなし今日ベーベルの塔を築くにも好し阿房宮を結構するにも吾々の力は抑も何如計りなるか宇宙の大家屋に較らべて見るときは何のほこる所もないとである。左れば讀書萬卷を積むとも智慧はいよ〳〵窮する計り專攻三十年に渉るとも道理はいよ〳〵暗きが如し吾等人間は万物の靈長なりと云はゞ云へ何の知れる所ろ何の能く爲す所ろありや實に最と果敢なき最と力らなきものであると思ひ知らるゝことでありませう。故に古今の大學者ニウトンの如きは世人が其身の學術に大功ありしことを賞揚するに對して答へたる言葉に、

世の人は吾を何如ようにども申し玉へ吾れ一生のうちに爲し得たる研究は恰かも大海の磯邊に戲るゝ一小兒が双の手に貝を拾ひ得たるが如し眞理の大海原は尙ほ茫々として右の方に廣く存して居れり、

とある是れ實に眞の謙遜ではありませんか。吾々何にも特更らに其能をかくすに及ばん元來其能も智慧も何事も實に淺墓なるものであれば自からへりくだることなからんとするとも得ざるものであります。

故に吾々此の宇宙の現象を篤と觀察し又た心を落付けて此の宇宙を造られたる　上帝の前に出で退いて吾が一身を省みるときは一身は是れ宇宙間の一微分子全智全能なる　上帝の最も至らざる所ろの一受造物であることを覺悟さるゝ、さようあらば吾れ何に向つて誇り何に向つて驕ることが出來ませうや自然と心に畏を生じて謙遜謹愼の思を起すことであります。此故に眞影流の達人は道を歩むときも肩を低うし身を縮め戰々兢々として參ります何故なれば彌よ劍道に達する程彌よ人が恐ろしく成ゆゑである、又世に聞えたる大學者は議論をつゝしみて容易に說を立ない中々輕々しく天下の道理を辨ずることが無が之を何故かと云へばいよ〳〵學べば學ぶ程にいよ〳〵智識

の足らざることを承知する故である。左れば彼の人に驕りたかぶるものは即ち宇宙に斯る宏大の事あるを知らず吾等の上に彼の全智全能の　上帝あることを知らざる下等の人間にして云はゞチメン小手を二つ三つ習ひたる似而非劒術遣ひか又は漸く中學大學を卒業し得たる程の生意氣學者と同樣のもので實に吾々の學ぶべき人で無い。願くは天下の姉妹方よ心より眞にユヅリ心より眞にヘリクダリ所謂る眞正の謙遜あるものを御心得ありて能く其言行をつゝしみ玉へ之は必らずしも自から能をかくし學をかくす空世辭の類であく高尙の道德に適なつたる聖き德でありまず若しも左樣あらば斯る謙遜の心得ある人こそ即ち眞の優美なる女德をば身に現はすとが出來るものであらうと信ず。

小説

○奔彪榮華の夢

"Last Days of Pompeii"

英國　笠頓先生　原著
日本　靑笠小史　譯述

第二章　賣花娘（二）

廣朗加士は冷笑しあがら　廣「先づ我等が羅馬人を嫌ふと云ふ其大概を申さうなら彼等（羅馬人）は我等が先輩即ち雅典人の眞似を好んでゐると云ふにも拘はらず其の風流瀟洒の神髓をば學んで万事の所作が大層重くるしく壯大に爲るのを喜ぶが第一我等の氣に喰んです、彼等は遊獵に出掛るときも供の奴隸に弗列多の書籍を持せて出掛けます、ダカラ獲物の無い時は書物と紙筆を取出して一分時も損をせぬ事を專一と爲るです、此等は風流と經濟とは兩立せぬといふ遊樂の大趣意を知らぬ田舍漢の所行とより外は申されぬ、又舞妓が波斯の都雅たる裝束して手も妙に舞ふ席でも彼の座食する懶蜂奴が頑石の如き面色（物に感動せざる樣子）して此の舞妓に西色[illegible]のデ、オッフヰシス（書名）の一節を讀で聞せます、此等は唯學者ぶる憎躰振のみならず凡そ遊戲と勉强とは斯樣あ割合に調合すべきもので無いと云ふを知らぬ心中の痴愚を故々風聽するものと申ても宜しからう、されば彼等は斯樣な餘計あ見榮をして眞正の遊戲も出來ねば學問も出來ず事兩つながら全損を致すです、總躰が斯ナ工合で都て君（苦弄日亞士を指す）の國人は彪利古兒士（詩人）の神氣轉換る工夫亞士巴沙の衆人愛敬るゝ妙趣と云ふを毫も腦髓に持て居らん、夫に就て大笑あ說話がある此間弗里尼の所へ往たところが彼奴納凉室で例の眞面目で書物を爲て居る其傍で哀れな奴隸がチビア

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

イスター、テ、ホウシュの像

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●女學雜誌

（毎週一回各土曜日出版）

此雜誌は婦女子の心得とあるべき事柄を一切書集めたるものにて社説には當今の時勢に際して女の心得置くべき事件を信切に教諭し又有觸れたる弊害ハ厭慮なく之を諫め當に務むべき女の責任ハ綿密に之を勸め專ら女流を開化に導くの案內を示す論説には我國にて有名ある學者記者等の女に關する論文を請ひ又外國の書籍雜誌等に出でたる有益の文章は抄譯して相掲げ特に有名の方々が女學に關し演説ある時は必ず之を速記文にて寫し取り載するに付假令ひ之を傍聽せざる人々にも紙面にて座ろに之を耳にするの愉快を覺へしむ叢話にはすべて女のたしあむべき事柄を最も平易に談話するが故に母親か子を育つるの心得、妻が夫に仕うるの道、娘が學校にて勉強する方法等を初として家內經濟、家內衛生、等に大切なる教又は縫針、洗濯、煮燒、料理の案內若くは交際とりなしの禮式、男女つきあひの用心、讀書運動の要目等ハ皆な此處に於て懇ろに教示すべし次に批評には時々に出版する女學に關係の新書の大意を示し且つ之は讀て宜きものと之は惡きものとを一々に評して讀む人の便利を計り佳傳には古今東西にて有名なる婦人は固より凡そ貞操孝烈にして女の鏡とすべき女流の傳記は皆高尚なる文に書きつゞり何ほ面白くして有益ある女の小説を一つ宛副へ專ら實際に女の手本を現はし寄書には各女學校生徒の文章及び有名なる女流の人々の投書を集め尚折々は編者の評をも附し新報には內外に起る女學女事の景況を一切取集めて座がら滿天下の女の景況を示し讀者をして為に勵み為に喜び時勢の趣く所を容易に知らしむるの工夫を為し其外珊瑚の玉と稱する女學上の金言を毎號五つ六つ宛相載せ西洋の有名ある學者詩人が讀出たる詩又は文章の中尤も面白き英語の辭句をあちこちに挿入し毎號高尚細密なる圖書を入れ折々は各女學會の景況を特別廣告として細かに報告し何ほ女論に關する雜取文中優等あるものを附錄として載せ文章はすべて平易優雅にして不清潔の文字は一句たも紙面に登さゞる等を此雜誌編輯の規則となす。

一冊（大本二十二頁以上）定價五錢郵稅一錢府內無稅。十冊前金郵稅共五十八錢。見本は郵券六錢を要す

●女學雜誌第九拾三號附錄（明治廿一年一月廿一日發兌）　發行人兼編輯　巖本善治　印刷　森田豐

(樂器)を彈て居るスルト又其側で那奴の婿がチ周西泥士の著はした疫病論を讀で居ながら時々其頭で調子を合せて口では其の恐ろしい疫病の說明の細かな記事を繰返して居ッた僕は實にソレを見て斯ナ哲學上の愚人めらは撲のめして遣り度いと思ッたが一躰彼奴等は愛情の歌と疫病の記事とを同時に聞て毫も混亂ない一種不思議な腦漿を持て居ると見える(苦弄日亞士は返答に困ッたと云ふ面色して苦「ハテチ」虞朗加士は益々調子に乘て)虞「僕も其の痴呆の言譯をさせて遣らうと思ッて。勉强に遊樂を兼ね遊樂に勉强を慰むるは實に非凡い。と冷却たが那の痴漢は僕の底意を悟らなかッた、ダカラ痴呆だがチ、得意氣な面をして。音樂の爲に喜ぶものはホンの耳で有る併し此の書物は、君、疫病の記事ですヨ、之を讀で思慮を高尙にすると。吐したスルト又那の肥太た叔父痴人が感歎の聲を發して。ア、那婿は全く雅典の人の樣に平生微妙の事物と實利の事物とを兼用します。と言ッた僕は其時噴出す程好笑かッたがジッと耐へて。イヱも甥御の遊戲實利兼用主義は未だ小生の雅典でも發明しませぬ最美高妙の事です。と譽てやッたがマア積算ても見たまへ何處の國の雅典人が斯な馬鹿な眞似を爲るものかチ、スルと其處へ使が來て此婿の哲學者の愛友が熱病で死だと知せて來た其時彼の哲學者は天を仰いで洪歎し傍らなる奴隸を呼で曰く噫彼人逝けり矣今は及ばず汝彼の書棚にある保禮西の詩の本を取り來れ彼の詩人は我が此の不幸に際して如何に予を慰むる乎と叫んだ、ナンと苦弄日亞士君斯ナ人物が抑も愛情の何たるかを知て居らうと思ひ玉ふ歟啻に其心に愛情を知らぬ計りで無い五官の上にも恐らく眞の愛と云ふ物を知らぬだらう實に羅馬人にして情の有る者は少ない我輩思ふに彼れ羅馬人は才能を有せる一個の機械で肉も無ければ骨も無く又精神も無いと思はるゝと底を叩いて羅馬人の惡口を排列られ左しも鐵面皮の苦弄日亞士も心中聊か恥かしくも有り又內々にて勃然としたる樣子なりしが寄生物の悲しさ陽はに其怒を言ひも現はさず却て虞朗加士の言ふ所を道理なりと思ふ氣色を粧ひたり人の無氣力玆に至りて極れりと謂ふべくや

二人は斯る事を語り合つゝ散歩し遂に三條の大道の相會する辻に出でたり只見れば此辻の前面ゐに一宇の社殿の軒の下に右の肱に一盆の花籃を懸け左の手に一挺の三絃の樂器を携たる一人の小女低く軟かなる調子に合せて可愛げなる聲して唄を謠ふ而して折々唄を歇て面白き樣に花籃を揮り道行く人に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

其花を賣らんとすされば人々も歩みを停めて懐中の金を幾干づゝか此籃の中に入れ花を買ふも有り唯惠むも有り蓋し此の小女は盲目にして外に親戚も有りや無しや兎に角不幸の窮境に沈みたる者なれば其を憫むと又外に容貌の愛らしくて音樂の調子好きを愛つゝ與ふるものと見へたり

廣朗加士は此所に立停りながら虞「ハヽア那女は例の不幸なる設沙利亞人か此府に歸りてより未だ其聲を聞ざりしが苦弄日亞士君先づ暫く歩を停めて那の聲の美なるを聞き玉へ

佳傳

○イスター、デ、ホウシ夫人の肖像　中川永輝

女學雜誌に請ふて本號の第一葉に掲げたるは米國婦人禁酒會の出版局長兼バーモント州禁酒會の會長にして且つ同州ブラットルボロー府の女學雜誌(せ、ウーマンス、マガジン)の記者たるイスター、デ、ホウシ夫人の肖像なり此頃の米國シカゴ府發兌のシ、ユニチン、シグナル雜誌中に會頭ウイルラルド孃が同婦人の事を傳したるものありて云く

夫人は專ら生民の進歩に精神を盡し第一基督教を敬信し深く人民の智識を開かんとを切望し男女小兒をして各自其技倆を顯はし神の大權大能を世に達せしめんとを目的とし專ら廣く出板の事業を擴張し其善業は疾くに衆民の心底に達せり夫人は幼年の頃より非常に諸人の愛を受られたるが之れ實に天賦の生質ありと雖も亦自ら其貞心之を好むに因るとあらん夫人の言に「假令落天の日に逢ふと雖も余は公道を以て天地に報ゆ」と斯の如き精神なるが故に唯英佛獨の諸學に止まらず羅甸希臘の諸學をも明にし博學多才の名を以て世に知られたるのみならず性頗る活潑にして是非を斷する恰も電光の如く人をして夫人を禁酒會の燈臺なりと評するに至らしめたるも宜なり云云

○マダム、イリサベスの傳　長谷川峯子

這處は佛蘭西の北の方寒納河に跨りて石橋鐵橋を數多横架し十數條の鐵道は晝夜を別たず轟々として快走す陸上の滊車四通八達の街衢には何れも列なる大厦高樓寺院あれば議事堂あり演劇場や公園や右に左に壯觀を極むる中に於て結構何となく氣高く嵬峨として美麗に美麗を盡したる一つの宮殿あり是れぞ隱くれなき世界第一の都たる巴理府地方の「ベセラ王宮」なり。

扨も此王宮に生れ給ひたる「マダム、イリサベス」となん呼は

る姫君は不幸にして早く父母を失ひ給ひし由緣にや氣質短慮氣隨にして已れを制するてふ謙遜の心は絕へてあらざる程なりき然るに之が後事を托せられたる師傅たる人は甚たく之を憂ひ所謂剛柔の德を以て只管すら之を矯めんとせられたれば頑剛の幼女も次第に感化を蒙むりて自克の術を學びしが是れぞ後に至つて甚た有用なる品格たりと知られたり。

雲井遙かに聳へたる最と立派なる宮殿は朝日に映じて煌々たり緣の色に輝く園や原昔時は父の住居かとそゞろに忍ぶ感情も未だ起らざりけり幼稚子の四人の兄弟五人の姉妹と共に戯れつゝ遊べる折りイリサベスは此の世の人は皆我爲に使はれん爲に造られたるなり現世に何をか憂ふべき只だ不自由なき天國なりと思ふより外なかりけりされど滿つれば虧くる世の習ひ時しも世を治め給へるルイ十五世が餘りに驕慢ぶりて殆んど制止する所なかりしかば上の亂れは下に及びて茲に一の騷亂を起すべしとは露白波の荒はてゝ國内洶々として早晩破裂せんずる有樣なり偖も此帝王に嗣ひで位に即き給ひしはイリサベスの兄に當らせ給ふルイ十六世にして未だ若年なるにも拘はらず甚だ謹直敬神の心厚かりしかば只管神の旨を待ち事公平に民を治めんとは始めより心掛け給ふ所なりき然れど如何にせん先帝の爲に不滿を抱く下民の怨情は今益す炎焰赫々として今王の美政を察するに暇まなく憐れ先人の恨みをば罪なき君に報ぜんとする兆し一時に現はれたり是れ所謂る佛蘭西邦大變革の起原にして實に一千七百八十九年七月十二日即ち安息日自由の旗は夕日の光に映じて翩翻たりき。

此の時亂民は先づバスチルの牢屋をば打ち亡ぼし税吏の頭たるフーロンを擒にし市街の氣燈の下に斬首して昔し我等に麪包を得る能はざれば秣草を食へと言ひし讐なれとて彼の口に秣草をつめこみ快よし快よしと天地を動さん計り叫びたり猶彼等の狂暴は彌烈しく早や宮殿に押よせ來たり爰にイリサベスが他に隱所を得給ふべしと諫むれども聞かず敵に御身を渡し給ふなと忠告すれども聞玉はざりしルイ王はあはれ詮方なくも敵の掌中に陷いりて女王と二人の若子諸共車に載せられ屠所ゆく羊の樣して送らるゝ場合とはなりにけり凡そ斯る場合に臨んでは世の人大抵はそれ見よと言はん計りの顏するものなるにイリサベスには斯る氣色を露ほども現はすべきや只だ兄の爲に一命を打捨んとの決心よりして敢て自ら同車に打乘りたり扨ても四方敵に送らるゝ此王達は最早如何ともせんすべなし折々は外を眺めて我等は汝の敵にあらず汝の友な

りその意を現はさんとするのみなりき然るに矢竹にはやる若者はいらぬ道路を迷ひ行き態と緩々送るものから僅なる道なるに午後一時半の出立よて夜ハ十時半と移り過れど未た謫所に達する能はざりき或は信實ある臣下の道にて會合するあるもなどて之を助くるとの得べきやは唯王の壽命を祈ると叫ふのみありされば又若者等も夫れに應じて民よ長命せよかしと叫び反すなど高聲雜言到らざる所なかりき茲に一つの記すべきとは彼のマダム、イリサベスのとなり彼は未だ年數たらぬ少女の身にしあれど精神確乎として動かすべからず二人の子供を慰めつゝ慊しつゝ心中ひそかに祈を捧げヲ、神よ我れは爾に一身と凡ての持物とを捧ぐ凡ての苦しみ凡ての爲すべきと皆爾の愛に委ぬ爾は我が力又我を試みより救ひ我望みを爾に留しめ又我死する時我を請けたまふの神なればなりと嗚呼彼は眞の勇者眞の女丈夫たる品格を充分に保有せしものなりしとこそ謂つべし。

● 寄書

○春を祝ふて聊か思を述る

明かに治り盛ふ君か代の二十ちあまり一とせとけふあら玉の春がすみたなひき渡る日の丸の光りかゝやく御旗にならひ雪霜に堪へて常磐に色かへぬ緑いと濃き松か枝にたてそふる呉竹の操の節もいや高く飾るもあれぞ外つ國のさまにうつして國なる緑の門にさし挿み色どる若やむも赤き南天によろづの花を眉まぜていさうるわしくかざりたる幾千萬の軒端に風のまに／＼なひけたる春のかざりの長閑さは千代も八千代も變なきためしとこそはしられたれ都も鄙もおしなべて老も若きも諸共に壽いはふ其儕はをちにひらきて谷の戸を今たち出る鶯の初音ゆたかになりぬらんと思ふばかりの樂しさよ池に結びしうすらひや汀にたてる青柳の糸のしらべの妻琴の音ものどけく春をしらするむろの梅笑をふくめる福壽草こがねの色よ玉椿光をそへて水くきのおかしかりける水仙や葉もいと長くたちのひて緑の空の大宮へいはひあけむとつとひつる位貴とき人々のゆきかふ道に數知れず光りかゞやく馬車の内ハ昔の衣それならて新に進む開明の巴里倫敦や紐育伯林などの衣裳をも好むまに／＼よそほひて高く頂く禮帽に光りをそふる黒かみ高く卷あげつさ志かさしたる花くしもけに美るはしくみよし野の眺めもかくやおもはるゝ身にかざりたる金銀ハあたりまばゆく見へぬるハいともいみじき事にして外より内を導くといふ道理もあるなまるを夥多の人のうの中に時の如何や善悪の分ちもなくて外つ國になびろふ人もあるならん斯く改むる人々の深き思ハありそ海を濫き流れにおぼるゝハ志るよしとてハあらざれど長きを採りて短きを捨くといふ昔の昔より有りといへといかにして行ふ事の難きかなかたきといへハ何事も易き事となきぞかし難きを堪へてなす時ハ如何なる事かならざらん堪へよ忍へよ諸人よ御國ハ狹まくして住ぬる人の少きも心を共になす時ハ進めるさまもいと早く彼の歐米にますら男の助けをなしてつとめなばあへなき婦人とそしられし我か東洋の姉妹のさがなき名をも消へはてゝ新に受くる開明の香しき名ハ日の丸の光りと共ゝ輝きて外つ國人をもおどろかしつべし斯くなり行くその時ハ幾春秋の限りなき樂しき月日を送るらんいとも賢き姉妹よ爾ねあぐるも耻かしき愚なるわらへをば淺生が原の草の葉におくつゆをも憐み給ふ御こゝろのあらハ諸共につとめ／＼て日の本の光りを後ろに放たんと思ふ心のひとすじに描き誰も昔の葉もかへりみるまもあらし山吹きみたれたる花よりもいとあとさきに書よせてなこがましくもかくへるのしつ賞ふとき餘白を汚かせしをゆるし給へ

東京本郷元富士町貳番地　有芳女史　神川剛

○心の飾りてふ事をいきどゝいける人たれか品かたちのうつくしきをのみめづるなんぞもし／＼おみなハ品かたちをよそおふものにしあれとむらきもの心のひかりなかりせはかさしの玉も何かせむ今其ひか事をゆふへおふけなけれと心のくま／＼あらわしていひいでむとす實に人ハ品かたちの美しからむより心さしの清らかならむこそあらまほしけれ愚ならぬ身も貴き敎の庭に入りあかねさすあしたにはいて墨染のゆふへにかへり師の君のいとねんごろに導き給ふかたしけなさあたし此身の品かたちをたわめつくろふよしはあらねど心に茂る難波江のよしとあしとはかり辨さなん常磐なる松のみどりとくれ竹のまくれにあらそふ操もていたらぬ限り心のくまを打はらひ玉に光りをよそおふ事のいとも嬉しさことさらにけふは一とせの學ひの業の始る日とて諸君のかく賑わしうつとひ玉ひ揃きわらわも

此時にあひぬるかしこさのあまり短き筆の行衛もは棄からずこの言葉をおそりなく書つゞりけるになむかしこ

麻布東洋英和女學校　本科三年前期生　飯島しけ子

●新報

○婦人衞生會雜誌　兼て評判し置たる如く婦人衞生會及び婦人矯風會の双方ともにいよ〳〵雜誌發行の都合と成りぬ而して衞生會の雜誌は遲くも來る廿七八日頃に出版可相成筈にて既に屆出を濟せりときけり元來右兩會とも專ら婦人の擔當によつて編輯出版すべき目的なるが故に衞生會は荻野ぎん松浦さとの兩子を以て婦人矯風會は佐々木とよ子を以て編輯擔當と定めぬ然るに新聞紙條例近來の改正は上下一汎の歡聲を發する所ろとは云へ吾が姉妹方に取ては矢張り不滿足と申上べき點あり即ち其第六條に

內國人にして滿二十歲以上の男子に非ざれば發行人編輯人印刷人となることを得ず

とあつて婦人はどうしても雜誌を編輯出版することが出來ぬ之を以て止を得ず暫時之を男子に托することと成り遺憾ながら吾社の人々之に任することと成りたり

○高知にかての一怪報　驚くべき報道に接しぬ近來甚だ騷々しき彼の高知に於ては尋常中學校女子部の生徒等に嚴達あり自今女子興風會婦人矯風會女風改良會等の集會に列し又は學術演說を聽聞することを禁ずと申渡されたりとか何も保安條例と關係することのあらうかは其眞の起りの何になるや甚だ疑はしく思ふ所ろ也

○羽倉權命婦　は久しく病氣の處治療叶はずして去る十一日逝去せしと

○伊澤峰子　芝區南佐久間町の婦人編物會員伊澤峰子は是迄佛語女學校の助敎授をなし居りしが今度三重縣の日新女學校へ聘せられ此程同地へ赴きたるよし

○香川志保子　香川敬三氏の令孃志保子は去る十一日宮內省御用掛を仰付らる

○佐野常民氏　同氏は大日本美術協會の會頭に撰擧されたり

○女工募集　文部省編輯局は本年度より一層事務を擴張する趣にて近日製本部の增築に着手し引續き女工五十名を募集することとなり

○婦人大和製服　日本、支那、西洋の古今の服裝を折衷して一種新樣の服裝を工夫し之を改良婦人大和製服と名け廣く流行せしめんとて京橋區日吉町八番地の池田廉之輔は其筋の認可になり次第開業する都合なりと

○日本美術協會の委員會　上野公園櫻ケ岡なる同協會事務所にては去る十五日第五部(漆器、織織、蒔繪、彫刻)の委員會を開らき實業家中より柴田是眞、山崎樂、黑川眞賴、椎野正兵衞、齊谷瀧次郞、太田萬吉、小川松民の諸氏を同部の委員に指命撰任せり同部は區域廣きを以て十五名の委員を要するも差當り右の七氏を撰任し餘は夫々假定して會頭に申立つることに決して散會せりと尙ほ本廿一日例會を開くに付き總裁有栖川三品宮殿下佐野會頭を始め各部の委員も出席する由

○東京圖書館の婦人席　同館の縱覽場は男女席の區別なかりしが本年よりは別に婦人席を設け區別を立てたり

○淺草石濱婦人會　府下淺草區橋場町九番地の東京矯風會指命員淸田よし子發起人となり昨明治廿年十月同地に於て石濱婦人會なるものを創立し會頭には松平男爵夫人を仰ぎ講師には米國婦人ミス、スペンサー氏を聘し又淸田女史も自ら其任に當り從來の弊風を懲め婦德を高むるを以て目的とし傍ら英語學漢學等を敎授し又潮田某女を聘し毛糸編物をも學ばされたり當時會員僅々數名に過ぎざりしが其他會員諸子の熱心盡力により未だ數月ならざるも現今尋常會員凡そ三十余名外に贊成員名譽會員十數名あり規則及萬般の事各其緖に就き目下益々隆盛に赴くの勢なる由にて普く四方の有志諸姉に贊成を得弥同會の擴張を圖らんと會員某氏より報じ越されたり

○結婚媒妁の統計　我國にて結婚媒妁の嚆矢とする東京日本橋區檜物町一番地渡邊綱氏は結婚媒妁に盡力せられしが人智も追々進步し媒妁所に依賴するは耻る所なきのみならず緣遠いとか長し短しなど云つて大切なる新婚の年齡を空しく經過するは遺憾のことなれば此便法たる媒妁所へ依賴すべしとの考へにて依賴人次第に增加し一昨十九年度の統計表は各新聞に掲載あ■しが昨廿年の統計を聞くに左の如し

明治廿年中に媒妁依賴を受し人員七百五十八人內結婚調いし數百三十緣吳れ方貰い方双方にて人員二百六十人なり

一嫁吳方二百八十人（華族三人／士族二百二人／平民二百四十人）　一嫁貰方二百五十二人

一聟吳方百三十八人　一聟貰方四十五人（士族百四十二人／平民百六十五人）

一小兒吳方卅五人　一小兒貰方八人

○受驗人名　昨年十一月レース敎場に於て定期試驗執行せられしことは前號に記載せしが其受驗生人名は左の如し

全科卒業

佐賀縣士族　山崎セイ　長崎縣士族　深堀アイ　東京府士族　鈴木イチ

靜岡縣士族　尾實トウ　東京府平民　堀キン　同　立岩蝶

同　淺井ヨ子　愛媛縣士族　島田ミヤ　靜岡縣士族　櫻井ナイ

第二期卒業

東京府平民　椎野サダ　佐賀縣士族　秀島タキ

東京府士族　靑木シゲ　同　熊切ヨシ　東京府平民　鈴木キン

東京府士族　花形タマ　長野縣士族　飯塚レン

第一期卒業

佐賀縣士族　多久鹿千代　東京府平民　梅村シュン　岡山縣士族　森澤ミチ

東京府士族　內田コトジ　新潟縣士族　建部カツ　東京府平民　高林ナミ

愛知縣士族　山崎ツル　東京府士族　加納ヨフ　福井縣士族　田村シヅ
東京府平民　相原アクリ　山口縣士族　原川セイ　東京府士族　兒玉セン
同　秋田タツ　愛知縣平民　石橋キン　東京府士族　村上キク
長崎縣士族　島アヤメ　東京府平民　加藤リキ　東京府平民　細貝トミ

○花道指南　德島縣士族羽生愼翁氏ハ若年より花道熱心にて漸次修業を積み今日にてハ大日本總會頭職兼花道教授職に昇進せられし人にて當時麴町區中六番町廿六番地へ寄寓し居らるゝ由なれば有志の方々ハ同氏に就いて花道の傳授を受けらるべし同氏ハ又茶道にも達せし人なりと云ふ

○熊本幼稚園　同園にてハ去る七日新年幼稚保育始の式を擧行され、第一唱歌、次に遊戲あり了はりて堂上に於いて徂に色紙、切紙、折鶴、形菓子など結びつけたる飾り物と紙に包みたる食物など與へ家に歸されたりと

○佐野婦人手工會　有志者の盡力にて栃木縣安蘇郡佐野に設けし同會は毛糸編物、裁縫、家事經濟實地講究、育兒の要領、交際の方法、洋服裁縫等にして廣く會員を募り萬事着實を旨とし盡力せらる由

○製糸講習工女　目下上州前橋に製糸業講習の爲め滯留中の福岡縣下工女十名は何れも温良篤實にして熱心に事に當るを以て技術上の進歩著るしく殊に感ずべきハ同僚の交際にして現に此程該工女中二名の大患者ありたる際ハ互に看護を競ひ晝夜怠らず介抱する躰ハ骨肉の姉妹も及ばざる程にて之が爲め患者も大に力を得快方に赴きたりとの　となるがいと感ずべきことどもなり女學校生徒諸子少しく恥づる所なきか

○高知幼稚園　基督敎々師杉浦義一君の妻君ハ去る六日高知を發して神戸に赴きしよしなるが右ハ同縣下へ幼稚園を開設し信徒の幼兒に限り自分に之を教授するに付き改正教授術傳習の爲なりと

○京都婦人唱歌會　同會ハ目下會員百餘名に至り益隆盛にして去る六日其初會を開きしよし

○女生徒募集　長野縣通常縣會に於て同縣尋常師範學校内へ女子部新設のことに議定せしにより本年中に生徒廿名を募集すると云ふ

○婦人懇親會　豆州君澤郡德倉村外四ヶ村の有志婦人が養蠶の事業を擴張せんが爲に去十五日德倉村の遠藤恒太郞氏の養蠶室にて懇親會を開らき養蠶上の談話などありし由

○名古屋婦人會　同會ハ昨廿年一月に開き會員ハ代言人醫師文官女教員女生徒紳商の夫人令孃より成立ち目下會員二十名あり會頭ハ加納撿事長の令妹にて其目的ハ學校に入るを能ハざる婦人の爲に日常要用なる簡易の學術（婦人衞生學、家政學、物理學、修身學、和文、編物等）を講授し其講師ハ發起人（男子）及客員四名（男子）にて負擔し毎月二回開會す山鹿旗之進君同夫人も時々出席せられ其修身科ハ有賀武雄君負擔せらる而して春秋二季に親睦會を開らき又時々郊外の運動を催し躰育にも頗る注意せらるゝ由、本年の初回ハ去る五日にて洋會食等ありと云ふ同會ハ名古屋地方に於て必要欠くべからざるものにて後來囑望すべき有樣なりと云ふ

○鳥取縣製絲景況　鳥取縣鳥取製絲場並に米子分塲從來の景況ハ一昨年官報第八百七十五號に掲載せしが今其の後概況を擧ぐれば本場一昨十九年の製絲額ハ二百四十八貫八百匁にして現今職員ハ教師一人、工女世話役七人、職員三人、工女ハ現在員百廿四人にして創立の當初に在つてハ縣下一般蠶業未た進歩せざるを以て原繭購入方頗る困難を告げ一箇年間通じて就業せしむるを得ざりしも近來地方蠶業ハ駸々として其歩を進むるを以て從ひて本場製絲額の多きを見るに至れり之を去る十八年製絲額に比すれば百五十二貫六百匁を增加せり米子分塲ハ資本金二千八百六十九圓を以て設立し規則は總て鳥取製絲塲に準じ工女數ハ三十五名を定員とし且同地方ハ蠶業未だ振ハずして原繭の購求方甚だ乏しきを告ぐるを以て開塲期を當分一箇年四ヶ月間と定め目下休塲せり（一月十四日官報）

●海外女事

○ポピウラル、サイエンス、モンスリーの女編輯　米國にて發兌する有名の通俗學藝雜誌の編輯人には今度彼のヨウマン孃撰ばれたり孃は故の教授エドワルドヨウマンの同胞にして久しく氏の研究著作を助け居られたる女學士なり

○あなた程の男はある　米國の議官中インゴールスと云へるは有名なる女子投票權の反對論者なり先頃ゼインデペンデント雜誌中への投書に、先づ女の男に及ばないと云ふ證據には婦女子中にワエブストルの如きシエークスピアの如き女が無いではない乎と云ひたり、エベレット夫人之に答へて云く成程左樣なる智力を有つたるは未だ之れあらず候然し議官インゴールス君程の婦人は甚ハだ澤山にて候

○女子躰操塲　此頃英國ケンシントンのアルバート舘に隣りて新設したるアレキサンドラ、ハウス、と云へるは專ら婦女子に躰操を教ゆるの塲所にしてスチウアートスチル孃之を監督すと云へり

○女編者　米國にて婦人の編輯を以て獨立したるは今ま尙ほ彼のグーデース、レデース、ブックと云へる女雜誌の編輯人たるサラー、ゼー、ヘール夫人なり夫人が文壇に登りたるより當年にて二十六年なりと云ふ

○離婚統計　瑞西聯邦統計局の調査に據れば千八百八十六年中同國裁判所に於て宣告せる離婚の數は八百九十九にして結婚の數一千に付き一と九〇の割合なり同國中離婚の最も多きハヅリッチ郡にして其數二百十四に達し即ハち結婚の數一千に付き三と六二の割合なり又該調査を以てすれば離婚の宣告ハ「ガトリック」敎を奉する諸郡に少くして「プロテスタン」敎を奉する諸郡に最も多きを見るべし（一月十四日官報）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

大日本婦人衛生會演說會

右來る廿二日午後一時第一高等中學校講義室に於いて左の二氏を聘し演說會相催候有志の諸君來聽あれ

小兒の精神及其保護法　榊順二郎君

衣服の話　猪方正規君

移轉廣告

今般肩書の地に移轉仕候間此段辱知諸君に廣告す

小石川區小石川柳町廿七番地

跡見花蹊

女生徒募集

本校儀從前の校舍狹隘なるを以て左の處に建築落成候に付新に寄宿生通學生の入學を許す有志の諸君速に申込あれ

小石川區小石川柳町廿七番地

私立 跡見女學校

女生徒募集廣告

今回生徒を募集す志願の方は今月中に申込あれ學科は從來の通り米國女敎師三名日本敎師數名にて英學幷普通學を敎授す

東京芝區芝白金猿町五十三番地

頌榮女學校

○鈴木弘恭大人著述○小中村淸矩大人評

改正増補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案內　定價十八錢　郵稅四錢

此書は文章家なる鈴木大人か多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正増補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文よ譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部跡見女學校及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の敎科書となりたり

中島湘煙女史著

○善惡之岐　新刊

定價五拾錢　繪入美本

右は兼〻本誌上に掲載したる中島俊子君か得意の快筆を以て編まれたる小說なるが此度これを一冊として出板せり編中には中川昇氏が精密なる銅板彫刻の美畫を加へ總ふりがな付きにて初學者と雖も容易に讀み得らるべき書なり四方の諸君希くは一本を購て同女史が意想の高きと其健筆を味はれん事を

賣捌所、(銀坐博聞社、原金港堂、)

東京々橋區日吉町八番地

發兌　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

勝安房君題
津田仙君著

酒の害　全

一冊定價郵税共金拾錢●四冊以下一冊に付き仝前●五冊以上十冊以下一冊に付き割引價五錢(但遞送料は別に申受く)●百冊以下一冊に付割引價四錢(仝前)●百冊以上一冊に付き割引價三錢(仝前)

右第一版千五百部は一週間内に賣盡し候に付第二版出來候間續々御注文被下度候

出版　東京　婦人矯風會

賣捌　東京麻布區本村町　學農社雜誌局
東京京橋區日吉町　警醒社
仝　女學雜誌社

東京府知事從四位男爵高崎五六君題辭　津田仙君閲
從六位小花作助君跋　磯村貞吉君著

小笠原島要覽

正價七十五錢
郵税金十八錢

○洋裝美製總クロス金字入○地圖鯨其他の圖書十數葉

本書目次○總論、殖産軍備及將來南洋の大勢を詳論す○沿革、古今三百年間の歷史にして林子平、渡邊華山、高野長英等數氏小傳を附記し慷慨悲憤淋漓紙面に溢る又ペルリ氏が土民に授けし憲法あり其他最と面白き漂流記等を載す○地理、地勢面積山河等地圖を附す○人種、歐米南洋の人民來住の起原現今内地移民増加の有樣○風俗、服裝飲食居宅衛生の景況圖書を附す○物産、特有物産數百首を掲け其他鯨獵の法天日製鹽の術等に至る迄悉く説述す○氣候○地質○官廳○教育○宗教等は各部門に詳説す●此篇は如水磯村君客歳南洋に航し親しく彼の風土民情に接し著述されし者にて將來南洋に航し宏業を圖らんとし玉ふ志士殖産家は勿論苟も具眼の士は必讀の書也

發兌　東京淺草區西三筋町三十四番地　便益社

賣捌　東京麻布區本村町　學農社雜誌局
仝　日本橋通三丁目　丸善書店

發兌
一月。七日　十四日　廿一日　廿八日
二月。四日　十一日　十八日　廿五日
三月。三日　十日　十七日　廿四日　卅一日
四月。七日　十四日　廿一日　廿八日

定價
一册。五錢　郵税。一錢　(但府内無郵税)
十册。四十八錢郵税。十錢　(同前)
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告
一行　一回　(廿七字詰)　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ふ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記事を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町園々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文盛堂○横濱住吉町角田屋貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

發行所　東京京橋區日吉町八番地
本局　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治
印刷　森田豐

遞信省認可